

富山市定例市長記者会見（令和4年10月3日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。よろしくお願いします。

■陳内裕樹氏、小出泰久氏の政策参与委嘱について

市長

このたび、陳内^{じんないひろき}裕樹さん、小出^{こいでやすひさ}泰久さんに富山市政策参与を委嘱いたしましたのでお知らせします。

政策参与につきましては、まちづくり、環境、芸術文化等の各分野において、優れた見識を有する方に、専門的見地から助言いただくものです。建築家の隈研吾さん、映画監督・俳優の奥田瑛二さんなど、今回委嘱する陳内裕樹さん、小出泰久さんの他に、17名の方に委嘱しております。

任期は今月1日から2年間としております。

先月末よりパブリックコメントを開始しましたが、今年度中に（仮称）富山市スマートシティ推進ビジョンを策定することとしており、このタイミングに合わせ、陳内さん、小出さん両氏には、本市におけるスマートシティ政策を推進するための、ビジョン実現に向けたさまざまな取組について、助言をいただきたいと考えております。

両氏の略歴等は配布資料のとおりであり、多くの自治体でアドバイザーを務めておられますので、自治体の実情に即したデジタルトランスフォーメーションを実現するための専門的な見地からの助言を期待するものです。

■中山間地域スマホ買物支援事業の実施について

市長

これまでも本市では買物弱者支援として、大山・八尾地域での移動販売への支援などを実施してきました。今回のこの事業は、中山間地域にお住まいの高齢者をはじめとした買物弱者支援とデジタル格差対策の推進を目的とし、試行的に実施いたします。

具体的には、身近な地域の公民館等に専門の支援員を派遣し、生鮮食品や生活雑貨をスマートフォンから注文して自宅まで配送するネットスーパーサービスを利用するためのアカウント登録や注文方法までの一連の手続きを学べる機会を提供したいと考えております。ご友人と一緒に受講できる講座形式と個別相談会形式の2形態とし、地域のニーズに合わせて柔軟に（支援）サービスを提供することとしております。

なお、本事業で説明させていただくネットスーパーサービス事業者については、公募により県内でネットスーパーサービスを展開する2者を採択いたしました。

また、この機会に併せて、インターネットやスマートフォンを使用する際に留意すべき架空請求やフィッシング詐欺等の犯罪被害に対する備えについても、富山県警と協力しながら十分な説明を行うことで、参加者が安心・安全に、便利なサービスを利用できるよう、サポートしてまいりたいと考えております。

今年度は、細入地域、山田地域などの中山間地域において実施いたします。対象者はこれらの地域にお住まいの住民の方で、スマートフォンの基本的な操作方法を習得している方を想定しています。

実際の支援実施については、10月上旬以降、地域ごとに順次開始し、12月上旬頃までに終了する予定です。参加者の募集は地域ごとに回覧板等により行いますので、ぜひ、ご近所同士でお誘いあわせのうえご参加いただければと思います。

■富山市ガラス美術館企画展

「フィンランド・グラスアート：輝きと彩りのモダンデザイン」 「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」の開催について

市長

ガラス美術館では、来月 11 月 3 日（木）の文化の日から、新たな企画展としまして、「フィンランド・グラスアート：輝きと彩りのモダンデザイン」と「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」の 2 つの展覧会を同時開催いたします。

まず、「フィンランド・グラスアート展」につきましては、ガラス美術館の土田館長が直接、企画・監修した展覧会であり、1930 年代から現在に至るまでのフィンランドを代表する 8 名の著名デザイナーとガラス作家に焦点を当て、職人との協働作業により制作されたガラス作品約 140 点を展示いたします。

今回の展覧会は、本美術館を皮切りに、茨城陶芸美術館、東京都庭園美術館など、全国 6 か所の美術館を巡回する予定であり、本美術館で企画・監修した展覧会が全国に展開していく初の試みとなります。

洗練されたデザイン性を誇る北欧フィンランドのインテリアやガラス製品は、近年、日本でも非常に人気が高く、私たちの暮らしにも大いに取り入れられ、親しみやすいものとなっています。

ご来場の皆様には、是非、フィンランドデザインを生み出した巨匠たちの原点ともいえる「アートグラス」の作品の数々をお楽しみいただければと思います。

次に、「ムーミンの食卓展」ですが、日本でも昔からアニメや小説などでおなじみの、フィンランド発祥の世界的なキャラクターである「ムーミン」の物語に登場する「食べもの」をテーマとした展覧会で、絵本の原画をはじめ、海外の個人コレクターから特別にお借りした幻の手作りフィギュアなど、多彩な作品を紹介することとしております。

この展覧会は、先月下旬まで埼玉県飯能市のムーミンバレーパークで開催されていたもので、本美術館が全国に先駆け、開催するものであります。

会期中の関連プログラムとしまして、11月に東京のフィンランド・センター所長をお招きし、「世界一幸せな国フィンランドの暮らしとデザイン」と題した記念講演会を開催します。

また、12月には、土田館長が特別に講師となり、フィンランドで古くから親しまれている伝統的な装飾品である「ヒンメリ」をガラスで制作するワークショップを行う予定としております。

このほかにも、同じ施設内の図書館でのフィンランド関連図書の展示や、ミュージアムショップでは、イッタラなどのフィンランドのガラス製品や、ムーミン関連のグッズなどを販売することとしております。

また、開会初日の11月3日は文化の日で、常設展の入場料が無料となっており、本展覧会も一般1,500円のところ、1,300円でご入場いただけます。

両展覧会が、ご家族揃ってガラス美術館を訪れるきっかけになっていただければと期待しております。

■令和4年度富山市総合防災訓練の実施について

市長

このたび、令和4年度富山市総合防災訓練を10月8日（土）、婦中地域の婦中スポーツプラザグラウンド等を会場として、午前8時30分から11時までの予定で実施いたします。

この訓練は、近年、各地で自然災害が激甚化・頻発化する中で、災害対応力の向上や防災意識の普及啓発を図ることを目的としています。国や県にご協力をいただき、消防や医療機関などの防災関係機関、自主防災組織、各種団体、地域住民の皆様とも十分に連携しながら、大規模災害を想定した総合的かつ実践的な防災訓練を実施いたします。今回は、約40機関、

700 名の方々にご参加いただく予定としております。

また、お配りした資料のとおり、今回は会場を 3 つに分けて実施することとしております。

主な訓練の内容は、婦中スポーツプラザグラウンドでは、消防、警察、自衛隊等による倒壊建物や事故車両からの救出訓練のほか、応急救護所開設訓練、水道やガスなどのエネルギー関連施設の被害を想定したライフライン応急復旧訓練など、本番さながらの実働訓練を実施いたします。

また、鵜坂小学校では、地域住民の皆さんによる避難訓練や避難所運営訓練、炊き出し訓練などの地域密着型の訓練のほか、地震や煙中体験、はしご車体験などの各種体験コーナーも設置いたします。

本市の総合防災訓練は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度と令和 3 年度の訓練が中止となり、今回は 3 年ぶりの開催となります。関係者の皆様、地域住民の皆様のご協力を賜りながら、有意義な訓練となりますよう、準備を進めてまいりたいと考えております。

■メッシュ別人口データ等のオープン化について

市長

富山市ではこれまで、コンパクトなまちづくりの効果把握や施策検討を行うため、住民基本台帳データを G I S（地図情報システム）上にプロットし、公共交通が便利な地域の人口割合や社会増減の変化などの分析調査を進めてまいりました。

このたび、本市が進めるスマートシティの実現に向けて、地域の方々にまちの現状や課題を共有し、まちづくりを考える際の基礎資料としての活用や、民間事業者の方々によるマーケティングなどに活用いただくため、本調査データを広くオープン化することとし、本日午前より公開いたしました。

公開データは、令和 3 年 6 月末時点の年齢別人口や世帯数などを 250 メ

ートルメッシュごとに集計したもので、インフォマップとやまや富山市オープンデータサイトに掲載し、今年度の調査データなども順次更新していくこととしております。

住民基本台帳のプロットデータを基に、メッシュごとの詳細な人口データや社会増減データをオープン化する取り組みは、他都市には例のない取り組みであります。コンパクトなまちづくりの深化やスマートシティの実現に向けて、多くの方々がデータに触れるきっかけのひとつとしてご覧いただき、さまざまな場面で活用されることを期待しております。

■ グリーンスローモビリティの富山駅北地区における運行社会実験について

市長

環境にやさしく、低速で安全なグリーンスローモビリティの社会実験につきましては、今年度、岩瀬地区や熊野地区で行ってきましたが、10月8日から12月25日まで富山駅北地区で実施します。

今回は、この2カ月半の期間のうち、10月8日から11月3日までの第1期、11月12日から12月25日までの第2期に分け、それぞれ運行内容を変更することで、より多くの内容について検証したいと考えております。

まず、第1期の主な実験内容といたしましては、以前から運行しているバスタイプのブルーバースに加えて、7人乗りのランドカータイプ、これはゴルフカートをベースに7人乗りのものを製造したと伺っておりますが、これをグリーンスローモビリティとして新たに運行したいと考えております。

ランドカータイプは、小型で登坂能力があることから、富岩運河環水公園内の今までの車両では通ることが出来なかった、細くて勾配のある経路を運行することができるということで、今後の市内郊外部での生活交通としての活用可能性について検証したいと思っております。

また、前回の社会実験では、運行間隔が長すぎるとのご意見を伺いました。今回は2台体制で運行し、加えて運行頻度を増やしますので、利用者のニーズに合ったダイヤの確保が可能となり、より多くの方々に乗車していただけるものと考えております。

さらに、第2期では、車両の特性上、これまで冬の寒い時期には運行を休止しておりましたが、小型ヒーターを搭載するなど車内の寒さ対策を講じた上で運行します。このことで、冬期間の運行可能性を検証し、富山駅北地区での賑^{にぎ}わい創出や回遊性向上を目指すものであります。

本市といたしましては、ぜひとも多くの方々にご乗車いただき、人と環境にやさしい、新たなモビリティを体感していただくとともに、将来の地域公共交通について考えていただくきっかけとなればと思います。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況については、感染者、入院者ともに、8月下旬をピークに減少傾向となっております。これを踏まえ、富山県では、7月27日に発出した「富山アラート」を、9月27日をもって終了されました。

しかしながら、いまだ感染者数は高い水準にありますので、市民の皆様には、引き続き、基本的な感染対策に心がけていただき、「うつさない」、「うつらない」ための行動の徹底をお願いいたします。

なお、9月26日から、感染者発生届の対象者を重症化リスクのある方に限定した全数届出の見直しが、全国一律で実施されております。

これに伴い、発生届対象外の市内の感染者数の把握が出来ないことから、市内の感染者数については公表を止め、県において、県内全体の年代別の感染者数を公表されることになっております。

また、今回の見直しにより、発生届の対象になる方については、
・ 65歳以上の方

- ・入院を要する方
- ・重症化リスクがあり、新型コロナ治療薬の投与または、酸素投与が必要な方
- ・妊娠中の方

となります。

こちらの方には、保健所から、引き続き、健康状態の確認等のご連絡をさせていただきます。

なお、発生届の対象とならない方については、保健所からの連絡はございません。医療機関を受診した際に、自宅療養の注意事項や、体調が悪化した場合の相談先、また、家族など濃厚接触者の注意事項などが記載された「療養の案内」をお渡しいたしますので、ご自身で健康観察をお願いいたします。

また、これらの方へのフォローアップ体制に万全を期すため、県では、「富山県健康フォローアップセンター」を新たに開設しております。24時間体制で、医師や看護師が電話相談に応じておりますので、健康や症状に不安を感じた際には、「富山県健康フォローアップセンター」にご相談いただきますようお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてご報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりであります。10月2日現在で、3回目接種を受けられた方は、279,437人であり、全人口に対する接種率は67.5%、4回目接種を受けられた方は、121,885人であり、このうち60歳以上の方は104,471人、率にして71.1%となっております。

さて、10月1日から本格的に接種を開始したオミクロン株対応ワクチンにつきましては、従来のワクチン同様重症化予防はもとより、感染予防や発症予防効果も期待されており、既に1,570の方が接種を受けております。

オミクロン株対応ワクチンにつきましては、2回目接種を完了した12歳以上の方全てが接種対象とされており、前回接種から5カ月経過した後に

接種できます。

本市では、接種回数や属性、年代に基づき、段階的に接種を進めていくこととしており、現在は、4回目用の接種券をお持ちの方のうち、60歳以上の方や、基礎疾患のある方、医療従事者や高齢者施設の従事者の方のほか、社会機能を維持するために必要な事業の従事者、いわゆるエッセンシャルワーカーの方について優先的に予約を受け付けています。

今後は、順次予約できる対象を拡大することとしており、10月11日からは4回目の50代、40代の方、10月19日からは30代以下の方や3回目の方が予約可能となります。

接種券につきましては、既に3、4回目用の接種券が配付されている方は、お手持ちの接種券で予約、接種ができます。接種券を紛失等された方は、市の予約・相談センターにご連絡いただければ、再発行することができます。

また、5月から9月の間に従来型ワクチンで2、3、4回目を接種された方には、接種間隔にあわせて、順次接種券を送付いたします。

詳しいことは、市特設ホームページでご確認ください。

なお、現在のところ接種間隔は5カ月とされておりますが、国では、今後、接種間隔の短縮を検討されております。短縮された場合には11月以降の接種が大変込み合うことも見込まれますので、対象となる方は、早めの予約、接種をお願いいたします。

次に、5歳から11歳の小児への接種についてであります。ファイザー社製の小児用ワクチンの3回目接種が薬事承認され、本市でも9月23日から接種が可能となりました。

接種対象は、2回目接種から5カ月が経過した5歳から11歳の小児となっており、接種券につきましては、順次発送しているところであります。

なお、2回目接種時には11歳だった方が、12歳になられた場合の3回目接種は、大人用のファイザー社製ワクチンを使用することとなりますので、ご留意いただきたいと思います。

また、5 歳から 11 歳の小児への接種につきましては、ワクチンの有効性や安全性に関する新たな知見が確認されたため、9 月 6 日から予防接種法上のいわゆる「努力義務」が適用されることとなりました。

保護者の皆様におかれましては、ワクチン接種のメリットとデメリットを踏まえ、お子さんともよく話し合われた上で、接種をご検討いただければと思います。

■ 質疑応答

記者

来年 5 月に開かれる G 7 サミットに先立ち、教育大臣会合が富山市と金沢市で開催されることが正式に決まりました。富山市での開催は 2016 年の環境大臣会合以来、2 回目となります。市長の受け止めと、全国で初めてとなる共同開催への期待をお聞かせください。

市長

2023 年 G 7 教育大臣会合が、富山県と石川県の両県による初の共同開催により行われることが決まりました。率直に大変素晴らしいことであり、市民、県民の皆様と共にこの決定を喜びたいと思います。

2016 年の G 7 富山環境大臣会合に続き、富山市において G 7 教育大臣会合が開催されることは、大変名誉なことであります。新田知事の会見にもありましたとおり、2 県開催されることのメリットを最大限に生かして取り組んでいきたいと思っておりますが、まずは県知事、国会議員の皆さん、関係者の皆さんと共に誘致活動に携わってきた私としては、先ほども申し上げたとおり、（この決定を）率直に、大変うれしく思っております。報道（関係）の皆さんにも応援メッセージをいただき、報道もしていただき、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

前回開催された G 7 富山環境大臣会合の際には、各国の大臣、世界の各都市の自治体関係者の方々、海外あるいは日本各地のマスメディアの方々など、たくさん（の方が富山市に）いらっしゃいました。そのことによっ

て、富山市の魅力が日本全国に、そして全世界に発信されたと思っております。当時から富山市は環境に関しましては先進都市として、そのような心構えを持って、先進的な取組をしていたと感じておりますので、そういう面からも富山市が大いにPRされたのではないかと考えております。

そして、富山市というのは典型的な地方都市でありますので、このような地方都市で、G7 富山環境大臣会合、G7 教育大臣会合が開催できるという実績を積んでいくということは、富山市民のシビックプライドそのものが向上していくということだけでなく、(富山市と)同等の地方都市の皆さんにもいい影響があるのではないかと考えております。

今回は、両県共同開催ということで、石川も富山も非常に教育熱心な県であります。それぞれの県や市に教育目標があり、非常に特徴的な教育が実施されています。両県、両市とも、教員は非常に教育に熱心で、使命感に燃えた教員もたくさんいらっしゃいますので、このような良い教育環境の中で、富山県、富山市の教育が育まれてきたということも大いにPRしていけたらと考えています。

本市におきましては、G7 教育大臣会合の開催を来年5月の連休明けと想定していますが、県と連絡を密にして、すべての準備が滞りなく進んで本番が迎えられるように準備をしていきたいと考えております。10月1日付で、職員の人事異動を発令するとともに、企画管理部内に、企画管理部次長をリーダーとする「G7 教育大臣会合推進チーム」を発足したところです。この推進チームが中心となって、今後、富山県や文科省等、主に富山県になると思いますが、連絡を密にとって準備を進めていくことになります。日程や内容が順次決まってくると考えますので、個別具体的なことも含めて、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

私からは以上です。

記者

今回DX推進のために、政策参与を2名登用されましたが、市長選時の

公約に最高デジタル責任者の登用も掲げられていましたが、それについてはいかがお考えでしょうか。

市長

お二人の（ように）実績のある、あるいはアイデアお持ちの方に意見を聞いていく中で、そのこと（最高デジタル責任者を置くこと）も必要ですが、それよりも、現在、富山市スマートシティ推進ビジョンも最終段階にきていますので、即戦力としてアドバイスをいただける方を委嘱するという形をとったということです。

=====

記者

6 月定例会でごみの有料化を含めた減量化施策について市民の声を聞く意見交換会が設けられるという方針を示されました。ごみの有料化については、有料化ありきではない議論だったと思うのですが、一方で早ければ来年の後半にも（有料化）という方針も示されました。少し慎重になられたような印象を受けましたが、改めて考えをお聞かせください。

市長

無料であったものを有料化するというのは、市民の方々の理解も大切ですので、一つは丁寧に進めたいという私の考えもありました。

加えて一方では、ごみをリサイクルしたりしながら、なるべく再資源化していくというような取組も進めていますが、（ごみを）処理する、焼却する、埋設することには非常にたくさんの費用がかかるわけです。焼却施設や浄化施設を維持管理していくと（なると）、施設整備ですので、耐用年数に限りがありますし、維持管理に非常に費用がかかるということです。

高齢者の福祉や公共の建築物、公共インフラ、（その）維持管理も含めて、今後やっていかなければならないことがたくさんある中の一つがごみ処理であり、将来の子どもたちにツケまわしをしていかないという観点においても、今、私たちが出すごみについては私たちが責任を持って、お金を払ってでも処理していくという形が望ましいのではないかと思います。そのことを市民の皆さんに理解してもらわなければならないので、このところのご負担をいただくということ（の説明）をもっと丁寧に進め

ていきたいということです。

記者

有料化は進めたいという思いはあるけれども、その理解を広めるためにもう少し時間が必要だと判断されたということでしょうか。

市長

方向は有料化の方向です。

ただし、現在、無料のところから新たにご負担をいただくということで、市民の皆さんにご負担をいただくからには、しっかりとした説明をして、ある程度の理解をいただきたいということで、時間をかけて丁寧に説明したいということです。

記者

グリーンスローモビリティ（の運行）は各地で行われており、運転手の確保ということが課題になっていますが、富山市では運転手の確保はどのようにされているのでしょうか。また、社会実験ということで今後は市の事業としても考えられていると思いますが、今後のスケジュール感や来年度予算に盛り込む予定などがあればお聞かせください。

活力都市創造部長

今年度は社会実験として、（市の）委託（業務）となっております。

今後の方針は、来年度からどうするかということも（含めて）、今年度の状況を見て判断しますが、今後は、できれば地域の足として、地域の自主運行ということを考えておりますので、ドライバーの確保も地域の方々でお考えいただくということを考えています。

市長

私もたびたび申し上げておりますが、地域でまとまれば、できるだけ早く実装をしていきたいという思いはあります。

記者

メッシュ別人口データ等のオープン化について、具体的にこのデータをオープン化することで、市民の方にどのように活用していただくことを考えていますか。

市長

まず富山市の利用の実例ですが、地図上に 250 メーターメッシュを引き、人口の流入が年次にどのように変化してきたかということが地図上にプロットされているわけですから、例えばその（データを基に地図）上に（棒グラフで示した場合）、流入が多いところは赤い部分がたくさん伸びている、高く伸びているとか、流入していないところ、かえって減っているところは、（下にグラフを）下げることもできるかもしれないですし、平のままと（いうように加工して活用できます）。ですから富山市で言えば、鉄軌道の「団子と串」の団子の部分や中心市街地の方は人口流入が進んでいますので、（団子の部分や中心市街地は）今のこのデータからすると、目で見ても、地図上に大きな長い棒（グラフ）がたくさん立っているというようなイメージ（を作ることができるよう）になります。

それを見て、交通事業者の皆さんや一般の商売をされている方が、出店計画や交通計画等に利用していただければいいと思いますし、一般の方々も、例えばまちで何かイベントをしたいという時に、今まではグランドプラザや大手モール、駅前広場など、そういったところだけでしたが、それ以外の郊外地域の団子（の部分）も（人口流入が）伸びていますので、こういうところをもっと伸ばしていくのに、そのエリアでもっと取り組むべきことがあるのではないかなというようなことの話し合いや実行の検証などに使っていただければいいのではないかと思います。むしろ、どのような使い方があるのかを提案していただければと思っています。

=====

記者

G7 教育大臣会合について伺います。今回、富山県と石川県による全国で初めての共同開催ということで、これから両県の間で調整が進んでいくと思いますが、市長としては、どのようなことを富山市でできたらいいと思っていますか。また、今後、県との調整の段階で、知事や県に対して市

として何か提案していく考えがあればお聞かせください。

市長

今後、教育長を中心に、富山県教育委員会、富山市教育委員会とも話しをされながら、内容等について話を詰めていかれると思います。

2 カ所開催ですので、その中身がどのようなになっていくかもこれからですし、それを待たないとわかりませんが、富山市や富山県が行っているふるさと教育、14 歳の挑戦や高校生のインターンシップ、小学生の田植えや稲刈り体験、サツマイモ（収穫）体験なども含めて、地域の方々と一体となった取組、あるいは P T A（活動）も盛んでありますし、小学校や中学校（の活動）に地域の多くの方々が参加されて、学校づくりというか、（教育）環境を整えていますので、いわば地域と学校教育が一体となって小学校も中学校も成り立っています。そのような特性を発信できたら素晴らしいのではないかと、市長として思っていますが、教育の中身については、やはり教育委員会主導で進んでいくものと考えています。

記者

先月の 9 月定例会で富山市議会が旧統一教会との関係を一切絶つという決議を全会一致で可決しましたが、そのことに対する市長の受け止めをお聞かせください。

市長

私も常々言っていますが、市長部局と議会というのは車の両輪であり、一方では、ある種、緊張感を持った中で、お互いに敬意を払いながら、その両輪が回っていくというようなものだと思います。

市長部局では、しっかりと今のようなこと（旧統一協会に関すること）を調査して、今後関係を断つと言わせていただいて、それに対応されて議会の方も、今まだ調査中だということを聞いておりますが、独自で調査された結果、全会一致で関係を断つと宣言されたと思っています。それを尊重したいと思います。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課